

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成27年5月29日現在

## 今月の重点活動

### ■新規就農希望者 JAぎふ野菜専門塾を開講

5月23日、JAぎふ野菜専門塾が開講し、10名が受講した。第1回目の塾では、受講生に幅広く野菜づくりを理解してもらうため、農業普及課のいちご、えだまめ、ブロッコリー、アスパラガスの担当者から、それぞれ栽培や経営上のメリットなどをプレゼンし、新規栽培への働きかけを行った。また、午後からは4品目の生産現場を視察し、塾生からは栽培様式や生育状況などの質問があり、非常に関心を持っていた。農業普及課では、今後とも塾の講師を務め、栽培技術について指導する計画である。(園芸産地支援第一係・近藤 勝)



【防虫ネット栽培の視察】

## 活力ある新産地づくり

### ■春ブロッコリー 目揃え会開催

5月13日に、岐阜市の西部地区春ブロッコリー研究会による目揃え会が開催された。今年、高温のため昨年より収穫時期が早まっており、5月14日出荷が始まり、6月10日頃まで出荷が続く予定である。品質は、花蕾も固く締まって上々であり、農業普及課からは、収穫日予測表を提示し、適期収穫の徹底を図った。出荷時期を分散させる栽培方法の1つとして、べたがけ栽培を導入したことにより、栽培面積も前年度の50aから68aに増加し、7.5tの出荷量を目指している。(地域支援第一係・稲葉千佳)



【目揃えの様子】

### ■アスパラガス 高畦栽培実証展示ほ場、順調に収穫量を伸ばす

羽島市内の新規栽培者ほ場において、昨年4月末、ハウス10aにアスパラガス苗を2,300株定植し、高畦栽培の実証展示を行っている。株養成を経て、1年後の初出荷を目指して栽培管理に取り組んできており、今年3月上旬から初収穫を迎え、順調に収穫量を伸ばしている。今後、農業普及課では、生育調査や灌水量調査を行って実証データを収集しつつ、安定生産に向けた技術指導を継続する予定である。(園芸産地支援第一係・藤田 文彦)



【春芽萌芽の風景】

## 売れる農畜産物づくり

### ■羽島市沖地区 「自分達の集落をどうするか」考える

羽島市沖地区では、この春より「自分達の集落をどうするか」を考えており、5月17日に地区の生産者約60名参加のもと、「集落営農」について勉強会が開催され、集団化に向けた第一歩を踏み出した。勉強会では、羽島市からは農振農用地制度及び都市計画について、農業会議からは「集落営農」の概要について、農業普及課からは実際に集落営農に参加した場合に、自分達が行うべき作業について、羽島市内の他組織の事例を挙げながら説明した。そのなかで、5年後・10年後の姿を想定しながら、集落みんなの意向を聞いて自分達に合った組織形態を作ることが大切であることが意識づけされ、今後関係機関では、地区に合った姿を提案できるよう支援を続けることとしている。(地域支援第二係・山田隆史)



【役員との事前打合せ】

## ■柿 柿産地改革プラン戦略会議開催

5月26日に、第2回柿産地改革プラン戦略会議を開催し、管内の各柿産地が抱える問題点と現在の取り組みについて、J A ぎふ園芸販売課・営農企画課と検討した。

また、果樹産地構造改革計画の策定に向けては、今年中に方向性を明確化する必要があるため、今後は当戦略会議のなかで併せて検討してゆくこととした。

(園芸産地支援第二係・鷲見彩子)



【産地の課題洗い出し】

## 戦略的な流通・販売

### ■いちご、えだまめ、だいこん等 本年度のGAP取り組み方針を決定

5月18日に、岐阜市園芸振興会のGAP運営委員会が開催され、いちご、えだまめ、ほうれんそう、だいこんの各部会役員をはじめ、J A、市など関係者31名が参加した。

農業普及課から、昨年度のGAP現地調査結果概要や課題を説明するとともに、本年度のGAP取り組みとして、点検項目案と自己点検及び現地調査シート案などを提案した。

部会役員からは、点検項目が厳しいのではないかなどの意見も出されたものの、GAP取り組み方針の了解を得ることができた。また、各部会内にGAP実践リーダーを選定すること、生産者同士でクロスチェックを試行することについても理解を得ることができた。

(園芸産地支援第一係・近藤 勝)



【GAP運営委員会の様子】

## 魅力ある農村づくり

### ■柿 網代地区で鳥獣対策の研修会を実施

5月25日、網代柿振興会総会が開催され、総会後の鳥獣被害対策研修会において、農業振興課鳥獣被害対策専門指導員から「集落ぐるみで取り組む鳥獣害対策」について、農業普及課から「わな猟免許の取得」について説明した。

網代地区は岐阜市北部に位置し、山麓に柿園が多くあることから、イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、カラスなどの鳥獣被害に遭っており、この研修会を機会として、集落ぐるみでの鳥獣害対策が実施されるよう、農業普及課から働きかけを行うこととしている。

(園芸産地支援第二係・青山哲)



【研修会の様子】

## 県民みんなで育む農業・農村

### ■まくわうり 栽培体験学習等の支援

5月22日、飛騨美濃伝統野菜「まくわうり」の原種保存を目指す、本巣市のまくわうり栽培研究会は、農業普及課が推奨する「高畝・浅植栽培」等の基本技術を励行して定植作業を行った。

当日は、「まくわうりアイス」を開発している岐阜農林高校の生徒も加わり、会員から適切な作業方法などについて熱心に学んでいた。

また、5月27日には、本巣市立真桑小学校の3年生による総合学習の一環として定植作業が行われ、まくわうりの来歴や栽培方法など、同栽培研究会員と農業普及課が講師となり、体験学習支援を行った。

(地域支援第三係・横田京子)



【苗を植える児童】